排泄フローチャート

あくまで目安です

児童の実態把握 家庭との連携

①児童の実態把握

②家庭と連携して情報を共有

定期的にやりとりを行い良かった手だてや支援を共有したり次の目標や課題を伝えたりする。

排泄にむけて

トイレに入ることをこわがる

空調・換気扇の調整、蛍光灯を明るくする、トイレに好きなシールを貼る、安心できる大人と一緒に、トイレの扉を開けたままなど

はい

環境の調整
心理的な安定

漏らした時に反応がある

はい

トレーニングパンツ/排尿パット着用し定時排泄で練習

・排尿・排泄ができなくても紙で拭く、流す、ボタンの上げ下げ、手を洗うなどの動作を一連の流れで練習する。
・パンツ着用後でも実態に合っていないと感じた場合には、適宜オムツにする。

排尿の感覚が長い

パンツ着用定時排泄練習

児童がどの時間に排尿するか見当をつけて、ポイントを絞って練習する。

排尿の感覚が短い、全部出しきれない

1日にトイレで練習する時間が多すぎると、心理的な負担に繋がるため、無理をさせない程度に行う。

いいえ

オムツを着用し定時排泄で練習

児童の状態に応じて

便器に座る練習

トイレでオムツを取り換える練習

・排泄に関する絵本の読み聞かせや動画を見せるなど日常生活の中で種を撒く。
・何のためにトイレに行くか見通しもてないとトイレ拒否に繋がることがある。トイレに行く理由を作ったり、トイレが楽しい場所になるように工夫する。

排泄にむけて

・初めは定時排泄（1時間に1回）で様子を見る。児童の頻度に合わせて調整する。トイレに行きたい時にサインや絵カードで伝える練習を行うとよい。この時期は児童が行きたいタイミングでトイレに行けることが望ましい。

便器での排尿成功

たくさんの成功体験を積む

・成功した時は、とにかく褒める。できた喜びを共有し、自信をもてるようにする。

自立への移行

同性介助を前提に

教室からトイレに行って戻ってくる練習

・場所カードを貼ってから行く
・絵カードで伝える
・言葉で伝える

行きたいときに自分で知らせる練習

・定時排泄の間隔をのばし、行きたい時に自分から知らせる練習を行う。

決められた時間を守ってトイレに行く練習

・「休憩時間に行く」などルールを決めて調整する。
・行ってもよい時間にトイレカードを貼ったり、時計の学習を併用したりして見通しをもたせる。

立ち便器の取り組み

・初めはズボンを下まで下げてから行う。
・調整できるようになってからズボンで臀部を隠して行えるように練習する。

生理にむけた取り組み

・生理が始まる前に生理用ショーツ織物シートなどで練習する。
・家庭で生理にむけた本を用意してもらう。
・気分が優れない時の表出の仕方などを練習する。